

TD 研究の必要性 3つの評価軸

▼トランスディシプリナリー（超学際）研究とは：

持続可能な地球環境に向けての国際共同研究構想である Future Earth は、自然科学と人文・社会科学との文理融合の学際的（interdisciplinary）研究に加え、研究者と他のステークホルダー（行政、産業界、NGO/NPO、メディア、市民など）との超学際的（transdisciplinary: TD）な連携（協働）を行うことで、持続可能な社会へ向けた転換を目指しています。とくに、研究者コミュニティ以外のステークホルダーとの協働は、研究の立案の段階から成果の普及に至るまで組み込まれ、これまでの科学プロジェクトとは大きく異なる研究設計としてトランスディシプリナリー研究の推進が求められています。

▼TD 研究の必要性 3つの評価軸について：

今回のワークショップでは、トランスディシプリナリーな研究アプローチの必要性を評価するために弊所で関連する文献を整理し策定した以下の3つの評価軸を用いて、それぞれの研究課題に対してTD 研究の必要性について優先度を評価して頂きます。

議論をうながすきっかけとして、各評価軸に疑問文をつけていますので、ワークショップではこの問いかけを参考に議論してください。

不確実性：

- ・大きな論争があるか？
- ・未知/不可知の大きな部分があるか？

価値観：

- ・異なる（妥協し得ない）大きな考え方が関わっているか？
- ・完全に中立の視点でこの問題を検討することができるか？

利害：

- ・利害はどれくらい大きいか？（度合いの大きさ、範囲の広さ）
- ・利害の種類はどれくらい多いか？（生業、健康と生命、財産、多数の人々）